

教育委員会会議録

令和6年（2024年）第10回臨時教育委員会会議

開 会 日	令和6年（2024年）8月19日（月）	
開 会 時 間	午後4時00分 ～ 5時30分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員 村田 慎 委員
	事務局	須佐美徹 教育次長 福田衣都子 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第54号 令和7年度（2025年度）使用小学校教科用図書の採択について（公民）	
協 議	令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採択について（公民）	
署 名	西山忠男	
	村田 慎	
会議録作成者	教育センター 村上公英	

令和6年（2024年）第10回臨時教育委員会会議【8月19日（月）】

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長	令和6年第10回臨時教育委員会会議を開会いたします。
〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	本日は、私のほか4人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議規則第14条 第2項の規定に基づき、会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、西山委員と村田委員とします。
日程第1 協議	
・協議1 令和7年（2025年度）使用中学校教科用図書採択について（公民）	
遠藤洋路 教育長	それでは、協議1 令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採択について事務局より説明をお願いします。
樫木敏之 副所長	協議1について説明します。令和7年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。本日は、そのうちの「公民」1種目についてご協議をお願いします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。
伊藤友子 選定委員長	まず、「公民」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。
《平川純哉 研究記録員説明》	
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。
《樫木敏之 副所長 説明》	
伊藤友子 選定委員長	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
西山忠男 委員	詳細なご説明をありがとうございました。 一般からの意見の中で、自由社と育鵬社について賛否両論あったと思うん

小屋松徹彦 委員	ですが、歴史の教科書のときに議論しましたように、教育委員会の教育行政における政治的中立を確保するという観点からしたときに、私はやはりこの2社は選ぶべきではないと考えます。 自由社については、日本賛美、天皇賛美、人権軽視という特徴が顕著に表れていると思います。例えば自由社の教科書、教科書を開けたただけですごい日本の技術が書いてありますけれども、まさに日本賛美なんですが、日本の科学技術は今どんどん凋落していて、韓国にも負けているというような状況です。 人権に関していえば、今の日本で問題になっているのはジェンダー平等、男女の平等のことなんですけれども、例えば教育出版ですと82頁にジェンダー平等について詳しい議論が載っていて、ジェンダーギャップ指数が日本は世界で最低レベル、124位、年齢で違いますよ、124位117位ですね、これは非常に問題になっているのに、こういうことに関する記載が一切ございません。ほかにもたくさんありますが、別のときにも言ったので省略します。 また、育鵬社のほうは憲法改正に関する記述がとても長い、しかも数か所に出てきている、憲法を改正しなければならないかのように誘導されているように、読んでいる人は思ってしまう。そういうところで、非常にバランスを欠いた記述の部分でこの2社は選択できないと私は思っております。 残り4社の中で帝国書院が一番評価が高いので、私もそのとおりだと思います。主体的な学び、深い学びについて帝国書院は非常に優れていて、本市の生徒にとっては最も良い教科書かもしれません。 ただ、私は教育出版も非常に高く評価していて、それは人権教育というものです。教育出版は平等権で4頁、自由権で4頁、社会権で4頁と非常に多く他社よりも詳しく記述していて、先ほど述べたジェンダー平等についての記述も教育出版が一番詳しいと思います。私は、ですから、帝国書院でもいいんですけども、教育出版を一番に推したいと思います。 私も調査結果で見たときに、観点2の①、それから2の③というのが帝国書院◎ということになっていますけれども、今、西山委員がおっしゃっているように、導入の部分から中に入っていって章のまとめがあって、そのまとめをしながら、また最終の準備をしながら進める。最終的には課題探究につながる。かなり工夫されていると思います。こういう流れが非常に生徒が力をつけて、主権者としての成長につながっていくのかなというふうに思いますので、そういった部分では帝国書院の◎というのはいいなと思います。 もう一つは導入のしやすさというか、位置図を使って、それからそれを見ながらという、これもまたそういう形をとって非常に親しみやすい、そういう点で工夫がされているなと思いました。 別の観点から見ますと、例えば先ほどご説明ありましたけれども、サブタ
-----------------	---

澤栄美 委員

イトルとメインのタイトルを持ってきているという教育出版がありました。これは非常に何かとつきやすいなど、この章ではどういうことを学ぶのかということが、まず最初に出てくるので、非常に構成が分かりやすいなというふうに思ったので、これは教育出版が非常に評価されるなど。

もう一点は平和主義についてですけれども、教育出版、それから日本文教出版は2時間取ってあったんですね。ちょっと内容を見させていただきましたが、この2社が丁寧に平和主義について伝えていると、非常に評価できることです。

さらにまた教育出版のほうは、それに加えて沖縄の基地問題、これを両面使って解説してある、これは非常に大事な点だと思うんですね。日本国民としてやっぱりこの沖縄がこういう状態というのはしっかり勉強する必要があるので、2ページを使って説明してあるというのは非常によかったなというふうに思いました。

以上です。

細かいところで言うと、東京書籍で私ちょっと社会保障のところに興味があったので教科書のほうを見ていたんですけど、社会保障の記述の入り方というのが東京書籍が一番つかみやすいような感じがしたのと、それから、いただいた別の紙資料の中で基本的人権のところ東京書籍の資料にはハンセン病と人権ということで、熊本のことが取り上げられているところは、非常にいいと思いましたし、子どもの権利とか子ども基本法についても取り上げられていることは今の子どもたちへの、熊本も子ども基本法に沿って教育がなされていますけれども、そういったことが取り上げられていることと、あと紙資料のほうの平和主義のところ東京出版には非核が、私も全部しっかりと見ているわけではないので、この表からだけでは、非核について取り上げられているというのは非常に重要ななと思いました。

ただ、学習の流れというところで考えると、やっぱり帝国書院が巻頭という頁が9頁あって、この公民の中でどういうふうな学びをしていくかということと、それから、これからICTを使っていく中で熊本もロイロノートの中に思考ツールとかがあって、深い学びの前提として対話的にやっていくというところとICTというのを掛け合わせると、教育出版のほうにも同じように、帝国書院でいうところの巻頭みたいなのところがあるんですけど、ここから最終章のところのやっぱり深い学びに導くというのについては、学習の流れというところでいうと、やっぱり帝国書院が一番いいかなということと、それから、グラフが一番多いというのが私は重要なことかなと思うんです。日本の子どもたちの学力としてOECDの結果なんかも見ても、やっぱりそういうグラフを見て自分の意見を論ずるとか、そういったところが弱いというところを考えると、社会という教科の特徴からいってもグラフを読み取るという点を重要視してあるというところでは、帝国書院がいいのかな

村田 模 委員	というふうに思いました。 以上です。 私はLGBTQプラスのところの工夫というので、また教科書を見させていただいたんですけども、自分の中では、差別が許されないという簡単な表現ではなく、教育出版の「自分らしく生きるということが大切にされるべきなんだ」というふうに、寄り添っていく表現になっているというのがとても大切だなというふうに思いました。ほかで言うと日本教育出版だと、自分らしく生きられるよう理解して配慮することというふうには書いてあるんですけども、それが浸透しつつあるというふうな記載になって、そこまで書き切っているのかなというちょっと疑問があったりもしました。その中では教育出版の表記というのがとても丁寧だなというふうに思ったところです。 帝国書院でも別の視点でいうと、子供が勉強したことを生かして自分で学んでいきたいというふうに、主体的に学ぶ姿勢をサポートする配慮がされているのは、帝国書院がやっぱり一番丁寧なのかなというふうには感じたんですけども、ただ30頁、帝国書院の、町並みのイラストから様々な問題を見つけるというくだりがあるって、その取組というのはとてもよいことだというふうに思ったんですが、例えば、ある人の後ろで嫌がっている女性がいたりとか、そういうのもあったんですけども、消防署に女性が描かれていて、よくよく考えたら、髪を結んでいれば女性なのかという疑問を感じました。あと細かいかもしれないですけども、よくよく見ると車の上に人が乗っていたりするような、多分これはイラストのミスなんだろうと思うんですけども、細かいかもしれないですけども、そういうところが少しずつちょっともったいないなというふうに感じたりもしました。教育出版の方がいいなというふうには感じているところです。
遠藤洋路 教育長	では、ほかに。 私の意見を申し上げますと、私は帝国書院かなと思いました。 理由は、西山委員がおっしゃったことと通じていますけれども、やはり主体的に学ぶというところで、自分たちが当事者なんだよという視点が貫かれているという点が非常にいいかなと思います。例えば最初にあった南北問題のところも、102頁ですけども、地球的課題に対してどのような対策や支援を通して国際協調を実現していけばよいのだろうかという問いになっていて、つまり日本が当事者なので、自分たちも当事者なんですよという視点になっているんですけども、ほかの社は全部、「世界にはどんな問題があるんでしょう」みたいなことになっていて、世界にどんな問題があるのかなというのと、自分が当事者として何ができるかということとは全然別のレベルの話だと思うので、そういうところは帝国書院が非常にいいのかなと思います。 ほかの章も同じように、例えば民主主義のところも、民主政治ですが、民

小屋松徹彦 委員	主政治を実現するためにどのような政治への関わり方が大切であるかということで、自分たちがどう関わるかという、どんな仕組みになっているのかなみたいなことだけでなく、そういう視点でどの章も貫かれているという点が私は非常に評価できるかなというふうに思いました。 ただ、最初の絵のところとか、先ほど村田委員からありましたけれども、これはやや安直というか、そんな感じがして、もう少し、そうですね、若干何か子供だましの感じがしたというのが感想です。 先ほど契約のところの御説明をしていただきました。帝国書院だけ、民法の売買の条文も後ろのほうに載せてあって、それぞれに条文が載っていますけれども、憲法が主であって、民法の澤委員がおっしゃっていた分は、帝国書院だけだったのかなと思いました。それが特徴的な点かなと思います。 それからもう一点、アクティブ公民ですかね、パン屋さんをつくろうということですと系統立ててやっていておりますけれども、これも帝国書院のほうが面白いなと思って見させていただきました。いずれ自分が起業するという、非常に参考になるような取組じゃないかなというふうに思いました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	ほかの委員からご意見は、よろしいでしょうか。ほかにありませんか。 ほかになければ、公民は以上といたします。
日程第2 議事	
・議第54号 令和7年度使用中学校社会（公民的分野）の教科書採択について	
《樫木敏之 副所長 説明》	
《投票》	
遠藤洋路 教育長	投票結果を報告します。 教育出版2票、帝国書院3票、他の出版社には票が入っておりません。 この投票結果から、議第54号 令和7年度使用中学校教科用図書「社会（公民的分野）」の採択については、帝国書院と決定いたします。
〔閉会〕	
遠藤洋路 教育長	以上で、本日の会議日程は全て終了いたしました。他に何かご発言はござ

令和6年（2024年）第10回臨時教育委員会会議【8月19日（月）】

いませんか。

他にないようでしたら、これで、令和6年第10回臨時教育委員会会議を閉会いたします。